

兵藤友博教授 主要著作目録

主な研究業績

1. 著書

- * 『英文で読む大科学者の言葉』, 東京工業大学科学史ゼミナール編, 講談社, 1985年
- * 『科学技術史概論』(共著), ムイスリ出版, 1985年12月
- * 『科学史 その課題と方法』, 共編著, 青木書店, 1987年
- * 『科学その歩み』(共著), 東京教学社, 1988年4月
- * 『歴史のなかの子どもたち 天才のはなし』, 分担執筆, 大月書店, 1990年
- * 『原爆はこうして開発された』(共著), 青木書店, 1990年7月
- * 『自然科学教育の原則とは何か』(単著), あずみの書房, 1991年8月
- * 『増補 原爆はこうして開発された』(分担執筆), 青木書店, 1997年5月
- * 『技術のあゆみ』(共著), ムイスリ出版, 2001年
- * 『私たちの倫理読本』, 全国民主主義教育研究会編集, 地歴社, 2002年4月
(分担執筆「II-8 原子兵器の開発に従事した科学者たちの場合」142-150)
- * 『技術のあゆみ 増補版』(共著), ムイスリ出版, 総頁197, 2003年4月
- * 『自然科学教育 研究と実践』(分担執筆), 草土文化, 21-42, 2007年2月
- * 『科学・技術と社会を考える』(編著), ムイスリ出版, 総頁196, 2011年4月
- * 『自然科学教育の発展をめざして』, 同時代社, 2012年12月
(分担執筆「第II部-§5「教育改革」は科学とその教育をどこへ導くか」219-252),
- * 『経営学部で学ぶために』(担当節:日本の製造業の技術力はどの程度のものか), 文理閣, 216-227,
2013年4月
- * 『科学と技術の歴史』, ムイスリ出版, 総頁160, 2015年4月

2. 論文

- * 「Bohrの原子構造論の形成過程」(共著),
『東京工業大学人文論叢』, 第4号, 179-198, 1978年
- * 「“有核模型”形成への原子構造論の発展」(共著),
『東京工業大学人文論叢』, 第5号, 213-229, 1979年
- * 「 α 粒子本性の探究から原子構造の解明へ」(単著),
『東京工業大学人文論叢』, 第6号, 123-140, 1980年
- * 「量子物理学史とパラダイム論」(単著),
『日本の科学者』, 第19巻, 第3号, 9-14, 1984年
- * 「放射線と原子構造I」(単著),
『科学史研究』, 第154号, 76-83, 1985年
- * 「放射線と原子構造II」(単著),
『科学史研究』, 第155号, 141-148, 1985年
- * 「原子の有核構造の発見」(単著),
『科学史研究』, 第156号, 205-214, 1985年
- * 「自然認識の教育」の自然科学教育との分岐点」(単著),
『IL SAGGIATORE』, 第14号, 60-66, 1985年
- * 「“自然教育”で自然科学の系統的学習は可能か(上)」(単著),
『理科教室』, 第28巻第4号, 90-95, 1985年4月
- * 「“自然教育”で自然科学の系統的学習は可能か(下)」(単著),
『理科教室』, 第28巻第5号, 92-97, 1985年5月
- * 「“自然教育”の自然科学教育との分岐点の再検討」(単著),
『IL SAGGIATORE』, 第15号, 52-58, 1986年

- * 「試論・実験科学史」(单著),
『19世紀物理学史研究』, 第1号, 37-52, 1986年
- * 「熱輻射論史の実験的側面からの検討—電気炉の採用—」(单著),
『19世紀物理学史研究 その課題と展望』, 第3号, 44-46, 1988年3月
- * 「展望・原爆開発の科学技術史研究」(共著),
『科学史研究』, 第169号, 1-4, 1989年
- * 「生活科の構想とその思想的背景」(单著),
『日本の科学者』, 第24巻第2号, 1989年1月
- * 「「生活科」にあらわれた「自己認識」「直観的発想」の教育とその思想的背景(上)」(单著),
『理科教室』, 第32巻第1号, 64-71, 1989年1月
- * 「「生活科」にあらわれた「自己認識」「直観的発想」の教育とその思想的背景(中)」(单著),
『理科教室』, 第32巻第2号, 76-82, 1989年2月
- * 「「生活科」にあらわれた「自己認識」「直観的発想」の教育とその思想的背景(下)」(单著),
『理科教室』, 第32巻第3号, 74-81, 1989年3月
- * 「理科の学習対象は“自然”か“自然科学”か」(单著),
『IL SAGGIATORE』, 第19号, 13-18, 1990年
- * 「物理学の現代的展開をとらえる視点—実験的側面からの検討を中心にして—」(单著),
『物理学史』, 第5号, 14-21, 1991年3月
- * 「自然科学教育の目的論へのアプローチとその今日的意義」(单著),
『理科教室』, 第35巻第1号, 20-27, 1992年1月
- * 「「新学力観」批判と理科教育(上)」(单著),
『理科教室』, 第37巻第6号, 78-82, 1994年6月
- * 「「新学力観」批判と理科教育(下)」(单著),
『理科教室』, 第37巻第7号, 76-81, 1994年7月
- * 「自然科学教育としての理科の枠組みを考える」(单著),
『理科教室』, 第38巻2号, 6-15, 1995年2月
- * 「ナチズムと科学—ファシズムと対峙する物理学者たち—」(单著),
『物理学史』, 第8号, 20-27, 1995年2月
- * 「ファシズム戦争と科学者—ドイツにおける総力戦体制への移行と科学技術動員—」(单著),
『物理学史』, 第8号, 28-33, 1995年2月
- * 「マンハッタン計画と科学者—軍事機密統制下の研究開発—」(单著),
『IL SAGGIATORE』, 第23号, 68-79, 1995年2月
- * 「自然科学教育の「たのしさ」とは」(单著),
『理科教室』, 第39巻12号, 6-17, 1996年12月
- * 「教課審の「横断的・総合的な学習」批判」(单著),
『理科教室』, 第41巻3号, 6-15, 1998年3月
- * 「新学習指導要領の背景と理科教育」(单著),
『理科教室』, 第42巻7号, 4-14, 1999年6月
- * 「X線の本性を探る科学実験とその手法を基礎づける産業技術」(单著),
『物理学史』, 第11号, 1-14, 1999年
- * 「電子の波動性の同時発見とその実験手法を基礎づける産業技術の異同」(单著),
『物理学史』, 第11号, 15-28, 1999年
- * 「「技術経営」への技術史からのアプローチ」(单著),
『技術経営システムへの文理融合からの接近』(立命館大学社会システム研究所), 21-30, 2001年7月
- * 「なぜ理科を学ぶのか—科学することの大切さ—」(单著),
『理科教室』, 第45巻1号, 8-15, 2002年1月
- * 「科学と技術を担う次世代人材育成政策について」(单著),
『日本の科学者』, 第40巻第11号, 578-583, 2005年11月

- * 「物と重さ」に関する科学史的考察（１）」（単著），
『理科教室』，第 49 卷第 1 号，96－101，2006 年 2 月
- * 「物と重さ」に関する科学史的考察（２）」（単著），
『理科教室』，第 49 卷第 2 号，96－101，2006 年 2 月
- * 「物と重さ」に関する科学史的考察（３）」（単著），
『理科教室』，第 49 卷第 3 号，58－63，2006 年 3 月
- * 「技術史・技術論から見たロボット」（単著），
『経済』，第 138 号，119－127，2007 年 2 月
- * 「科学技術政策の動向と学術研究体制」（単著）
『科学史研究』，第 241 号，35－39，2007 年 3 月
- * 「第 3 期科学技術基本計画と「人材育成」「イノベーション」政策重視への道筋」（単著），
『日本の科学者』，第 42 卷第 9 号，42－47，2007 年 9 月
- * 「「大学教育の構造転換」を企図する科学・技術人材育成政策」（単著），
『日本の科学者』，第 45 卷第 8 号，36－41，2010 年 8 月
- * 「科学技術イノベーション政策の現段階」（単著），
『日本の科学者』，第 47 卷第 11 号，50－56，2012 年 10 月
- * 「科学的認識活動の現代的展開とこれを基礎づけた産業活動との相互作用に関する考察」（単著），
『立命館経営学』，第 51 卷第 5 号，1－20，2013 年 1 月
- * 「『科学技術イノベーション総合戦略』のゆくえ—科学技術政策の動向を考える」（単著），
『経済』，No. 219，2013 年 12 月
- * 「原子力発電の社会的普及プロセスの歴史的検討」（共著），『学術の動向』第 19 卷第 3 号，55－76，
2014 年 3 月
- * 「学術研究体制を望ましいものに推し進めるのか，悲惨な事態へと追い込むのか—科学・技術政策策定の分水嶺」（単著），『日本の科学者』，第 49 卷第 7 号，9－16，2014 年 7 月
- * 「「STAP 細胞」発見・研究不正問題を引き起こした日本の学術研究体制 —これまでの科学・技術政策がたどった道程から検証する —」，『立命館経営学』，第 53 卷第 6 号，95－111，2015 年 3 月

3. 研究成果報告書

- * 『第二次世界大戦下における各国の原爆開発過程の実証的な比較研究』（研究分担），
科学研究費補助金（総合研究 A）成果報告書，総頁 150，1987 年
- * 『熱輻射に見る実験的ならびに理論的手法の歴史的検討』（研究分担），
科学研究費補助金（一般研究 C）成果報告書，総頁 64，1987 年
- * 『19 世紀における物理諸科学の成立と物理学的認識および手法の変遷』（研究分担），
科学研究費補助金（総合研究 A）成果報告書，1988 年
- * 『我が国の科学史研究の歴史と現状についての実証的研究』（研究分担），
科学研究費補助金（総合研究 A）成果報告書，総頁 337，1992 年
- * 『量子物理学の展開とその手法及び思想に関する実証的研究』（研究分担），
科学研究費補助金（一般研究 C）成果報告書，総頁 98，1992 年
- * 『1910－20 年代における原子物理学実験の進展と関連産業技術に関する実証的研究』（研究代表），
平成 8－9 年度科学研究費補助金（基盤研究 C(2)）研究成果報告書，総頁 50，1999 年 3 月
- * 『Carl Zeiss における産業研究所と研究開発の誕生：1845－1905』（研究分担），
平成 10－11 年度科学研究費補助金（基盤研究 B(2)）研究成果報告書，総頁 151，2000 年 3 月
- * 『科学教育への科学史導入の意味とその教材化に関する包括的研究』（研究代表），
平成 12－14 年度科学研究費補助金（基盤研究 B(1)）研究成果報告書，総頁 197，2003 年 3 月
- * 『21 世紀の企業活動とテクノロジー・マネジメントの研究』（代表），
2003 年度立命館大学社会システム研究所プロジェクト研究成果報告書，総頁 252，2004 年 3 月
- * 『イノベーション・システムと技術経営（MOT）の実証的研究』（研究分担），
平成 16－18 年度科学研究費補助金（基盤研究 B）研究成果報告書，2007 年 3 月

- * 『科学と技術・思想の相互交渉と研究開発体制に関する研究』（研究代表）、平成16-19年度科学研究費補助金（基盤研究B(1)）成果報告書、総頁176、2008年3月
- * 「中国湖南省株洲市経済企業調査（2012年12月）報告」（研究分担：松野周治・兵藤友博・今田治・守政毅・林松国・姜尚民）、『社会システム研究』、26、201-207、2013年3月
- * 「韓国釜山地域中小企業高度化の現状と政策—2013年8月実態調査報告—」（研究分担：松野周治・長島修・兵藤友博・今田治・林松国・高屋和子・姜尚民）、『社会システム研究』、28、243-285、2014年3月
- * 「調査報告 ハノイハイフォン地域における日系企業—ASEAN企業調査（ベトナム編）—」（研究分担：中西一正・兵藤友博・守政毅・吉田満梨・安藤拓生）、『社会システム研究』、30、159-182、2015年3月

4. 論説・読物・報告等

- * 「量子力学史研究(1)」（単著）、『IL SAGGIATORE』、第2巻第3号、34-37、1977年
- * 「波動か粒子か」（単著）、『物理と化学』（聖文社）、第14巻第12号、1978年10月
- * 「太陽の光をさぐる」（単著）、『物理と化学』（聖文社）、第15巻第3号、66-71、1979年3月
- * 「原子の崩壊」（単著）、『物理と化学』（聖文社）、第15巻第14号、40-46、1979年11月
- * 「原爆と科学者の社会的責任」（単著）、『受験の物理』（聖文社）、第1巻第8号、67-73、1980年
- * 「大電力時代の幕あけ」（単著）、『受験の物理』（聖文社）、第2巻第1号、58-62、1981年
- * 「第2次世界大戦とロケット」（単著）、『受験の物理』（聖文社）、第2巻第3号、64-67、1981年
- * 「座談会：科学史のすすめ」（共同）、『日本の科学者』、第17巻第1号、1982年、
（分担報告：現代物理学の形成、20-22）
- * 「原爆をめぐる科学者の対応の一断面」（単著）、『IL SAGGIATORE』、第12号、23-25、1983年
- * 「マンハッタン計画の史的検討—核時代の科学技術のあり方を問う—」（共著）、
『科学史研究』、第149号、47-61、1984年
- * 「幻の技術 初めての国産自動車」（単著）、『TRIGGER』、第3巻第6号、64-65、1984年
- * 「19世紀物理学史研究の覚書」（単著）、『IL SAGGIATORE』、第13号、66-67、1984年
- * 「座談会：『科学と教育』をとらえ直す」（共同）、『教育』、第471号、14-43、1986年9月
- * 「SDIは科学技術をどこに導くか（上）」（単著）、『技術教室』、第426号、84-89、1988年1月
- * 「SDIは科学技術をどこに導くか（下）」（単著）、『技術教室』、第427号、84-89、1988年2月
- * 「原爆構想の起源」（単著）、『理科教室』、第417号、94-101、1990年10月
- * 「対日原爆投下決定と科学者たち」（単著）、『理科教室』、第424号、94-101、1991年4月
- * 「日本の技術力は世界のトップか」（単著）、『新経営学部で学ぶために』（文理閣）、110-116、1997年
- * 「なぜ「教え」から「学び」へなのか（1）」（単著）、
『季刊・科学教育研究』、第14号、31-37、1997年7月
- * 「なぜ「教え」から「学び」へなのか（2）」（単著）、
『季刊・科学教育研究』、第15号、33-37、1997年10月
- * 「なぜ「教え」から「学び」へなのか（3）」（単著）、
『季刊・科学教育研究』、第17号、28-37、1998年4月
- * 「なぜ「教え」から「学び」へなのか（4）」（単著）、
『季刊・科学教育研究』、第19号、37-41、1998年10月
- * 「なぜ教えから学びへなのか」（単著）、『埼玉の自然科学教育』、第20号、12-42、1998年
- * 「技術経営研究プロジェクト：座談会「技術経営研究プロジェクトがめざすものとは何か」（共同）、
『Discussion Paper Series, 980601』、1998年
- * 「シンポジウム：科学史と科学教育」（共著）、『科学史研究』、第208号、231-239、1998年12月
- * 「なぜ「教え」から「学び」へなのか（5）」（単著）、
『季刊・科学教育研究』、第22号、25-37、1999年7月
- * 「なぜ「教え」から「学び」へなのか（6）」（単著）、
『季刊・科学教育研究』、第24号、27-37、2000年1月

- * 「日本の教育政策は国民の科学的教養を高めるものとなっているか(1)」(単著), 『科教協ニュース』, 第 518 号, 2001 年
- * 「日本の教育政策は国民の科学的教養を高めるものとなっているか(2)」(単著), 『科教協ニュース』, 第 519 号, 2001 年
- * 「日本の教育政策は国民の科学的教養を高めるものとなっているか(3)」(単著), 『科教協ニュース』, 第 520 号, 2001 年
- * 「日本の教育政策は国民の科学的教養を高めるものとなっているか(4)」(単著), 『科教協ニュース』, 第 522 号, 2001 年
- * 「シンポジウム：新科目『理科基礎』と科学史の教材化」(共著), 『科学史研究』, 第 214 号, 108-117, 2000 年
- * 「シンポジウム：新科目『理科基礎』の実施に向けてー科学史研究の役割ー」(共著), 『科学史研究』, 第 219 号, 161-170, 2001 年
- * 「望遠鏡の発達と太陽スペクトル」(単著), 『理科教室』, 第 560 号, 96-101, 2001 年 8 月
- * 「日本の教育施策は科学的教養を高められるか」(単著), 『しぜん』(東京教学社), 第 17 号, 1-10, 2001 年
- * 「日本の技術力は世界のトップか」(単著), 『経営学部で学ぶために』(文理閣), 164-73, 2003 年 4 月
- * 「学力低下を克服し, 市民的教養としての科学教育を」(単著), 『京都「理科教育のひろば」』, 第 3 号, 136-151, 2005 年 8 月
- * 「今次中教審答申の問題性について」(単著), 『理科教室』, 第 616 号, 70-73, 2006 年 4 月
- * 「立命館大学経営学部の教学改革事例」(単著), 『龍谷大学経営学部創設 40 周年記念事業報告集』, 47-56, 2008 年 1 月
- * 「日本の技術力は世界のトップか」(単著), 『経営学部で学ぶために』(文理閣), 198-207, 2008 年
- * 「「国家競争力」強化策としての科学・技術政策の展開」(単著), 『京都の科学者』, 第 164 号, 20-26, 2010 年 4 月
- * 「科学・技術と人権」(単著), 『未来を拓くーようこそ立命館へ』(立命館大学), 88-89, 2010 年 4 月
- * 「研究環境の「格差社会構造」ー科学研究費競争的資金の現状とその問題点ー」(単著), 『科学史技術史通信』, 第 16 号, 1-3, 2011 年 3 月
- * 「科学技術イノベーション政策の現段階」(単著), 『大学創造』, 第 27 号, 40-53, 2012 年 11 月
- * 『立命館大学経営学部 50 年史 文章版』(発行人: 立命館大学経営学部 50 年史編集委員会/総責任者: 兵藤友博、文書版責任者: 肥塚浩)、北斗社、2012 年 11 月 17 日。
- * 『立命館大学経営学部 50 年史 ビジュアル版』(発行人: 立命館大学経営学部 50 年史編集委員会/総責任者: 兵藤友博、ビジュアル版責任者: 八重樫文)、北斗社、2012 年 11 月 17 日。
- * 「公開シンポジウム「原子力発電の社会的普及プロセスの歴史的検討」, 『科学史研究』, 269 号, 107-110, 2014 年 4 月

5. 書 評

- * 「科学者たちはいかにファッショズムと闘い得たかーバイエルヘン『ヒトラー政権と科学者たち』の批判的検討, 『IL SAGGIATORE』, 第 10 号, 1-5, 1981 年
- * 「宮原将平著『物理学とはどういう科学か』を読んで, 『IL SAGGIATORE』, 第 11 号, 38-45, 1982 年
- * 「“物質と電気”を読んで, 『理科教室』, 第 381 号, 60-63, 1988 年 2 月
- * 「書評: 大沼正則著『科学史を考える』, 『科学史研究』, 第 165 号, 55-57, 1988 年
- * 「科学実験の現代的展開を語る本を読む, 『物理学史』, 第 6 号, 27-33, 1992 年
- * 「サジアトーレ同人会主催『科学見直し叢書』の合評会の記録, 『IL SAGGIATORE』, 第 22 号, 1-41, 1993 年
- * 「書評: 『坂田記念資料室 資料目録第 1 集』, 『科学史研究』第 186 号, 119-120, 1993 年
- * 「「核兵器と国家」私たちはどう考えるかー二つの書物を読んでー, 『科学史研究』, 第 200 号, 107-110, 1994 年

- 『立命館大学国際平和ミュージアムだより』, 第4巻第2号, 10-11, 1996年12月
- * 「書評: 市川浩著『科学技術大国ソ連の崩壊』, 『経済』, 第19号, 136-137, 1997年4月
 - * 「書評: バーコードへの挑戦/橋本健午著(日本経済評論社), 『東京新聞』, 1998年11月15日
 - * 「書評: 広重徹『科学の社会史』, 『理科教室』, 第586号, 2003年10月
 - * 「書評: 『岩波講座現代教育学11 技術と教育』-技術教育と切り結ぶ自然科学教育とは-, 『科学教育研究協議会創立50周年を祝う会』, 2004年11月
 - * 「書評: 橋本和美・藤江昌嗣・佐野正博・嚇燕書著『テクノ・グローカリゼーション-技術戦略・地域産業集積・地方電子政府化の位置-』, 『明治大学社会科学研究所紀要』, 第45巻第1号, 141-146, 2006年10月

6. 辞典・事典

- * 『科学史技術史事典』(分担項目執筆), 弘文堂, 1983年
- * 『大百科事典』(分担項目執筆), 平凡社, 1984-85年
- * 『大百科辞典』(分担項目執筆), 小学館, 1984-88年
- * 『科学の事典 第三版』(分担項目執筆), 岩波書店, 1985年
- * 『話題源 物理』(分担項目執筆), 東京法令出版, 1987年
- * 『化学大辞典』(分担項目執筆), 東京化学同人, 1989年
- * 『岩波科学百科』(分担項目執筆), 岩波書店, 1989年
- * 『日本大百科全書』(分担項目執筆), 小学館, 1999年
- * 『物理なぜなぜ事典』(分担項目執筆), 日本評論社, 2000年
- * 『日本歴史大事典』(分担項目執筆), 小学館, 2000-2001年
- * 『化学辞典 第2版』(分担項目執筆), 森北出版, 2009年12月

7. シンポジウム・講演等

- * 一般講演「N. Bohrの原子構造論の形成過程(1)」, 日本科学史学会第25年会, 1978年6月
- * 一般講演「“有核”模型形成への原子構造論の発展(1)」, 日本科学史学会第26年会, 1979年6月
- * 一般講演「“有核”模型形成への原子構造論の発展(2)」, 日本科学史学会第27年会, 1979年6月
- * 一般講演「熱輻射論の展開と電気炉の採用」, 日本科学史学会第29年会, 1982年5月
- * シンポジウム「マンハッタン計画の史的検討-核時代の科学技術のあり方を問う-」(共同)
日本科学史学会第30回年会, 1983年5月29日
- * 一般講演「実験科学史の試み」, 日本科学史学会第33回年会, 1986年5月
- * シンポジウム「現代における戦争と科学技術-SDI問題を考える」(共同),
日本科学史学会第34回年会, 1987年5月
- * 講演「理科教育論の動向について」,
科学教育の原則と方法を考える会(豊島区立勤労福祉会館), 1989年9月8日
- * パネルディスカッション「理科の学習対象は自然か自然科学か」(共同),
科学教育研究協議会埼玉支部12月研究集会, 1990年12月
- * 講演「原爆開発計画への科学者たちの対応-マンハッタン・プロジェクトを中心に-」
立命館大学土曜講座(末川会館), 1995年8月5日
- * シンポジウム「科学史と科学教育」(共同),
日本科学史学会第45回年会, 1998年5月30日
- * 特別講演「なぜ「教え」から「学び」へなのか」,
埼玉科教協・秋の研究集会, 1998年11月29日
- * シンポジウム「新学習指導要領と科学史の教材化」(共同),
日本科学史学会第46回年会, 1999年5月22日
- * 講演「日本の戦後発展と科学技術開発」(単独),
国際協力事業団/大阪国際センター, 1999.7.19
- * 講演「日本の科学技術開発競争力」,

- 立命館大学土曜講座（末川会館），1999年10月23日
- *シンポジウム「新科目「理科基礎」と科学史の教材化」（共同），
日本科学史学会公開フォーラム，2000年3月12日
 - *報告「日本の科学研究・科学教育とその将来」，
技術政策研究会シンポジウム，2000年6月3日
 - *特別講演「科学史・技術史から見たロボティクス」
第18回日本ロボット学会学術講演会(RSJ2000)，2000年9月13日
 - *シンポジウム「新科目「理科基礎」の実施に向けて—科学史研究の役割—」（共同）
日本科学史学会第48回年会，2001年5月27日
 - *記念シンポジウム「立命館大学国際平和ミュージアム特別展 百年の愚行」（共同），
立命館大学びわこ・くさつキャンパス プリズムハウス101号教室，2002年11月29日
 - *共同シンポジウム「日中間の科学技術交流の歴史」
清華大学（中国・北京） 科学・技術・社会研究所，2004年9月8日
 - *講演「戦後日本の科学教育政策を考える」，
日本科学史学会科学史学校，2004年10月23日
 - *近畿自然科学教育の集い・特別講演「学力低下を克服し，市民的教養としての科学教育を」
近畿自然科学教育研究協議会・奈良理科の会，2005年5月21日
 - *シンポジウム「学術研究体制の改編と今後のあり方を考える」（共同）
日本科学史学会第53回年会，2006年5月28日
 - *報告「人材育成政策と第三期科学技術基本計画」，
技術政策研究会第56回シンポジウム，2007年2月24日
 - *記念シンポジウム「これからの企業経営と経営学教育を考える」（共同）
龍谷大学経営学部40周年記念事業実行委員会，2007年6月13日
 - *講演「科学・技術政策の動向と『人材育成』・『イノベーション』政策重視への道筋」，
日本科学史学会東海支部第77回例会，2008年12月20日
 - *講演「3.11後の科学・技術政策について—第4期科学技術基本計画の見直し—」，
日本科学史学会東海支部第86回例会，2011年11月26日
 - *JSA学術体制問題シンポジウム「高等教育と科学・技術の危機の打開に向けて」（共同），
日本大学歯学部，2012年4月14日
 - *講演「科学技術イノベーション政策の現段階」，
科学史技術史研究所主催（中野商工会館），2012年9月29日
 - *報告「科学技術基本計画は科学技術基本法からどれだけ乖離しているのか」，
技術政策研究会第73回シンポジウム，2013年2月16日
 - *日本学術会議史学委員会・公開シンポジウム「原子力発電の社会的普及プロセスの歴史的検討」（共同）
日本科学史学会第60回年会，2013年5月26日
 - *パネルディスカッション「宗教と科学技術懇話会」（共同），東寺小子房，2013年9月28日
 - *JSA大学問題シンポジウム「学術研究体制の惨状と解決の展望」（共同），明治大学 駿河台校舎 リバティ・タワー10階1105番教室，2014年2月22日
 - *日本科学史学会・技術史分科会シンポジウム「科学史技術史の今日的意義」（共同），大阪市立大学文化交流センター，2014年3月29日
 - *JSA京都支部講演会「STAP事件：日本の科学は大丈夫か？」（共同），京都工芸繊維大学60周年記念館一階ホール，2014年7月27日
 - *日本科学史学会第62回記念シンポジウム「科学者と経営者の倫理と社会的責任」（共同），大阪市立大学杉本町キャンパス，2015年5月30日
 - *日本科学史学会第62回公開シンポジウム「戦後日本の大学における物理系の学術研究体制を考える—名古屋大学・物理学教室の科学・思想・制度・運営—」（共同），大阪市立大学杉本町キャンパス，2015年5月31日

8. その他

- * 「現代の諸科学の現状と課題」(単著), 『名古屋大学新聞』, 第359号, 1971年5月27日
- * 「豊田と挙母の関係—その一側面—」(単著),
『IL SAGGIATORE』, 第2巻第2号, 34-37, 1976年
- * 「自然科学教育としての理科の枠組みを考える—補論—左巻氏の『感想』に答える」(単著),
『理科教室』, 第480号, 83-85, 1995年
- * 「岐路に立つ一般教育学会」(単著), 『立命館大学教育科学研究所報』, 第21号, 1-2, 1996年
- * 「技術経営システム研究—技術経営システムと文理融合の高等教育プログラムの研究」(単著),
『ROSSI 四季報』, 第1号, 7, 1998年6月
- * 「規制緩和だけが進む道ではない規制強化もあるよ」(単著), 『経営アカデミー』, 1998年11月2日
- * 「第6回平和博物館会議に参加して」(単著),
『立命館大学国際平和ミュージアムだより』, 第7巻第2号, 9-10, 1999年
- * 「科学者レオナルド・ダ・ヴィンチ展」(単著),
『立命館大学国際平和ミュージアムだより』, 第7巻第3号, 4-8, 1999年
- * 「日本は「知的存在感のある国」になり得るのか—学術審議会答申をめぐって—」(単著),
『ROSSI 四季報』, 第6号, 7, 1999年9月
- * 「(巻頭言) 刊行にあたって」(単著), 『立命館平和研究』, 第2号, 2001年3月
- * 「21世紀世界を見通す科学的知性を」(単著), 『理科教室』, 第554号, 90, 2001年2月
- * 「日本の大学博物館から考える リニューアルへの期待」(単著),
『立命館大学国際平和ミュージアムだより』, 第9巻第1号, 2001年8月24日
- * 「大学生「学力低下」克服の試み」(単著), 『季刊科学教育研究』, 第31号, 1, 2001年10月
- * 「経営の新展開を進めるトヨタのフランス工場」(単著),
『ROSSI 四季報』, 第14号, 4, 2001年
- * 「真の教養とは何か」(単著), 『理科教室』, 第569号, 105, 2002年5月
- * 「玉田泰太郎さんのこと」『想う 玉田泰太郎先生』(『想う 玉田泰太郎先生』編集委員会)、日本文教
新報社、2003年3月
- * 「科学的認識と価値観の問題」(単著), 『理科教室』, 第585号, 104+, 2003年9月
- * 「自然科学教育を普通教育として保障する制度を」(単著), 『理科教室』, 第594号, 104+, 2004年6月
- * 「方便の教育ではなく真の教養を身につける教育を」(単著),
『理科教室』, 第50巻第3号, 1, 2007年3月
- * 「まえがき」(単著), 『3・11後の産業・エネルギー政策と学術・科学技術政策』
八朔社、2012年6月
- * 「技術の国際的展開とは何か?」(単著),
『ベシク経営学Q&A 第3版』, ミネルヴァ書房, 268-269, 2007年
- * 「論壇・オピニオン 研究不正招いた成果主義 「STAP細胞」論文問題」, 『京都民報』, 2014年8月
10日